

6. A-C bypass 手術前後の TI-201 心筋摂取率の検討

檜林 勇 柳元 真一 寺島 秀彰
 藤原 巍 伊藤 安彦 (川崎大・放・核)
 元広 勝美 勝村 達喜 (同・外)

虚血性心疾患の Aorto-Coronary Bypass 手術症例 42 名に対して 102 回の TI-201 心筋摂取率を測定した。すなわち、手術前後の心筋血流量の定量的評価を安静時と運動負荷時の比較も含めて検討し、特に等尺性運動負荷試験の適用の意義についても述べた。TI-201 心筋摂取率は全投与量に対する比率として算出し、インピーダンス拍出量計を用いて心拍出量を測定し、心筋血流量を求めた。手術前後の安静時の心筋血流量は平均値において、心筋梗塞の既往のない群では 197 mg/min から 269 ml/min へ増加し、心筋梗塞既往群では 174 ml/min から 252 ml/min といずれも増加した。また、運動負荷により、心筋血流量は術前 217 ml/min から 256 ml/min と軽度の増加がみられたのに対し、術後は 247 ml/min から 350 ml/min とかなりの血流増加を示し、A-C Bypass 手術により効果が大きかった。本法は手術前後の心筋血流量の評価法として有用であると考えられる。

7. 塵肺症における Ventilation wash out と Perfusion wash out のイメージの違いについて (^{133}Xe による)

佐藤 功 田辺 正忠 玉井 豊理
 板野 哲明 竹田 芳弘 三宅 正淑
 林 英博 (岡山大学・放)

塵肺症に対する核医学的アプローチのうち、今回我々は ^{133}Xe ガス吸入法、生食静注法より、各々での retention image について比較検討した。症例は I 型 7 例, II 型 9 例, III 型 1 例, IV 型 1 例の合計 18 例である。

Ventilation washout にて retention をみたのは I 型 3 例, II 型 4 例, III 型 1 例, IV 型 1 例の計 9 例であった。そのうち 7 例には、Perfusion washout にても同部位にほぼ同様の retention をみた。他の 2 例では Ventilation washout のあった位置には Perfusion washout はなく、Perfusion defect があった。本症では換気が血流に先きだつて障害されることが考えられる。

8. 胃の悪性リンパ腫症

伊藤 久雄 河村 正 小松 晃
 片岡 正明 小泉 満 棚田 修二
 飯尾 篤 浜本 研 (愛媛大・放)
 玉井 伴範 鳥居 本美 (同・1 内)

症例は 68 歳女性。主訴は上腹部不快感、昭和 55 年 1 月 25 日の胃集検でチェックされ、当院にて精査を受けた。肝シンチ、Ga シンチを施行し、胃悪性リンパ腫および肝転移を疑った。胃では Ga シンチで強い RI 集積を認め、肝転移巣は、肝シンチで欠損像として、Ga シンチで集積像として現れ、両者を比較検討することが重要と思われた。CT、スキャン血管造影にて、肝転移巣を描出し得た。血管造影では、原発巣、転移巣共、腹腔動脈造影では hypervascular な像を示し、一般に言われている hypovascular な像とは様相を異にした。報告されている胃悪性リンパ腫の血管造影上の所見を検討し、約半数で hypervascular な像を呈することを示した。

9. ^{99m}Tc -EHIDA による Functional Hepatoma の一例

三谷 健 長島 秀夫 西原 隆
 (岡山大学・1 内)

肝癌組織に、胆道造影剤が取り込まれる、所謂 Functional hepatoma の報告は 1969 年 Shoop 等が AJR に発表した ^{131}I -rose bengal の一例以後、殆んどその報告を見ない。今回我々は ^{99m}Tc -EHIDA の取り込みを認めた hepatoma の一例を経験した。症例は 49 歳の男性。AFP 21400 ng/ml, CEA 12.8 ng/ml, ^{99m}Tc -Sn colloid にて肝右葉上部に、大きな SOL を認め、その部に ^{67}Ga -citrate の強い集積を認む。Seldinger 法にて tumor vessels, tumor stain を認め、 ^{99m}Tc -EHIDA hepatobiliary scintigraphy にて tumor 部に RI の取り込みを認めた。非癌部に比べて RI の取り込み率も排泄率も遅れていた。剖検にて肝硬変 (甲型, 2300 g) 肝癌 (hepato-cholangio mixed type) であった。我々は肝癌、肝のう腫、肝血管腫等の肝腫瘍 25 例に ^{99m}Tc -EHIDA scintigraphy を施行したが本例の他、一例を除いて (肝癌と思われるが最終診断はついていない) 全例 RI は tumor 部に取り込まれていない。肝胆道シンチグラフィの肝癌診断への有用性の一面を示すものと考え報告した。